

平成28年度京都市産業廃棄物3R推進会議でいただいた御意見

京都市産業廃棄物3R推進会議（以下「会議」という。）は、平成23年3月に策定した第3次京都市産業廃棄物処理指導計画（以下「計画」という。）を推進することを目的として、平成23年8月10日から開催しています。

平成28年度は、3回の会議を開催しており、その概要は、以下のとおりです。

1 会議の開催状況

第1回 平成28年 7月22日（金）

第2回 平成28年12月21日（水）

第3回 平成29年 3月30日（木）

2 いただいた御意見

(1) 各施策の取組状況について

計画には、産業廃棄物処理に係る具体的な施策として、排出事業者に対する施策、処理業者に対する施策及び市民に対する施策の16項目が掲げられており、毎年度、第1回目の会議で各施策の取組状況について市から報告を行っており、委員からは、次のような意見をいただきました。

- 廃棄物処理法については、廃棄物への該当性など、解釈を誤ると大きな問題が発生する。行政指導を行うに当たっては、細心の注意が必要である。
- PCBの処理について、JESCO北九州市PCB処理事業所は、かなり早い段階で受入を停止するので、処理を急がなければならない。

(2) 水銀に係る施策について

第2回目の会議において、平成29年10月1日から施行される廃棄物処理法施行規則の改正について報告を行ったところ、委員から、次のような意見をいただいた。

- 水銀使用製品産業廃棄物に指定されるものが35種類に及ぶが、家庭から排出されるものと事業者から排出されるものの違いなど、周知をしっかりとしなければならない。

(3) PCB廃棄物の適正な処理の推進について

第3回目の会議において、本市が平成28年度中に取り組んだ、PCB廃棄物の適正な処理の推進に係る取組について報告を行ったところ、委員から、次のような意見をいただいた。

- 排出事業者側の課題としては、「PCBを処分する予算がない」、「保有していること自体を知らない」ということがあるので、周知に当たっては、「緊急」とするなどインパクトのある内容にする必要がある。
- 蛍光灯の安定器などについては、建物の建築年により限定ができるのではないかな。
- 既に廃棄物になっているものよりも、現在も使用されているものの方が問題である。
- PCB廃棄物が不法投棄されるなどの問題が起こるのではないかな。
- JESCO北九州市PCB処理事業所は、かなり早い段階で受入を停止するので、処理を急がなければならない。

3 平成28年度委員等名簿

(1) 委員

氏名	役職等
新井 吉久	京都府産業廃棄物3R支援センター センター長
石田 葉月	同志社大学経済学部教授（資源・エネルギー経済）
五十棲 雅人	京都府中小企業団体中央会 連携支援課長
黒坂 則子	同志社大学法学部教授（環境法）
郡寫 孝（委員長）	同志社大学経済学部教授（環境経済）
佐藤 辰巳	京都工業会 業務推進役
高岡 昌輝（副委員長）	京都大学大学院地球環境学堂教授（廃棄物処理）
高木 英二	京都府建設業協会 京都支部 常任理事
高橋 かつ子	公募委員（3R・低炭素社会検定 3R部門合格者）
檀野 恭介	京都環境保全公社 代表取締役社長
中川 雅貴	京都商工会議所 産業振興部 まちづくり推進担当課長
福岡 雅子	大阪工業大学工学部准教授（廃棄物管理）
細木 京子	公募委員（3R・低炭素社会検定 3R部門合格者）
渡辺 義文	京都府産業廃棄物協会 専務理事

（五十音順、敬称略。役職等は年度当初のもの）

(2) オブザーバー

氏名	役職等
尾形 順司	京都府環境部 循環型社会推進課長

（敬称略。役職等は年度当初のもの）